

## キダイ

高知県全域で「れんこだい」、「れんこ、連子」と呼ばれ、底びき網漁業の基地がある高知県中央部の御豊瀬では「ぼろ」とも呼ばれます。

マダイやチダイと比べると、体高が高い、体に青い点がない、背や口の上が黄色を帯びる等の特徴があります。

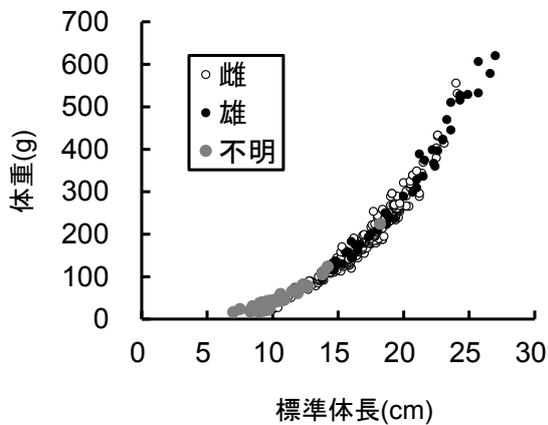


図1 高知県産キダイの体長と体重の関係 (平成26~28年).

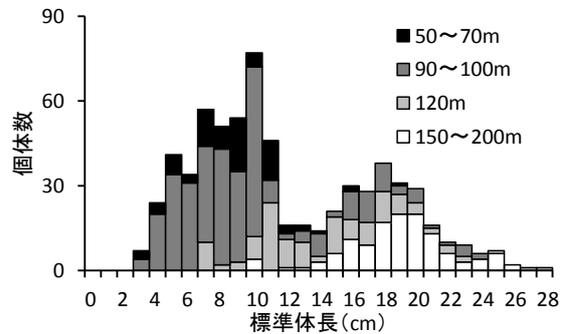


図2 高知県産キダイの水深別体長組成 (平成26~28年).

## 資源生態

本種の年齢と体長の関係は東シナ海産の魚で詳しく調べられています。それによると、成長は雌雄やふ化時期によって異なるのですが、ふ化後1年で尾叉長90~110 mm、2年で150~160 mm、3年で190~220 mm、4年で220~270 mmに達します (Oki and Tabeta 1998)。高知県では水深50~200mに生息していて、深い海域ほど魚体が大きくなります (図2)。

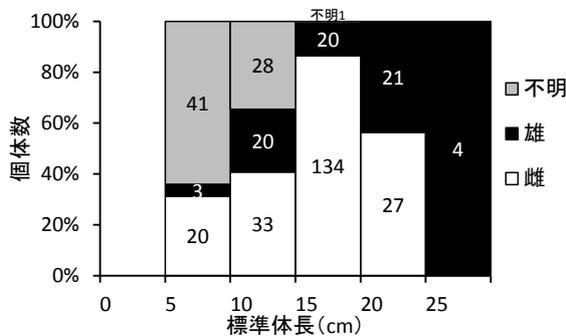


図3 高知県産キダイの体長別性別比 (平成26~28年).

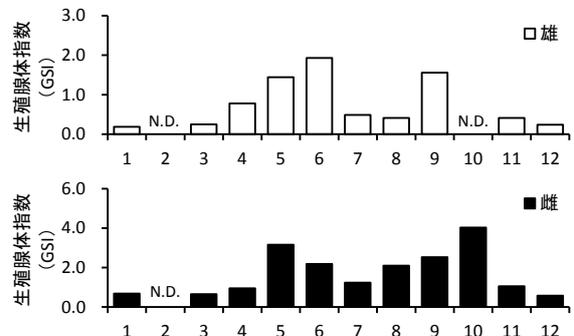


図4 高知県産キダイの月別生殖腺体指数の推移 (平成26~28年).

キダイは性転換をする種で、初め雌が70～80%と多く、4歳以上になると雄が多くなることが知られています(青山1955)。高知県産キダイでも体長が大きくなると雄の占める割合が増えることから(図3)、同様に性転換を行っていると考えられます。産卵期は成熟指数の1つである生殖腺体指数(GSI)の推移から5・6月及び9・10月で、初夏及び秋と考えられます(図4)。成熟開始年齢は東シナ海産キダイで2歳以上とされています(Oki and Tabeta 1998)。

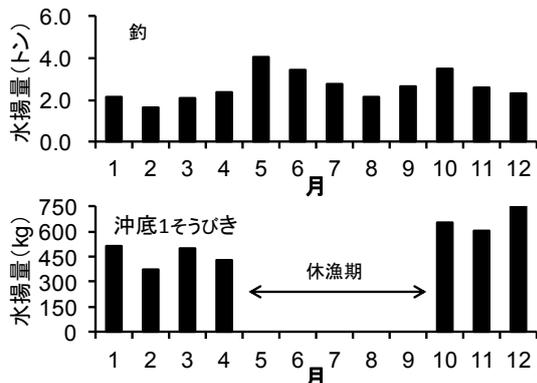


図5 沖合底びき網(1そうびき)によるキダイ水揚量の月別推移(昭和48～平成22年)。

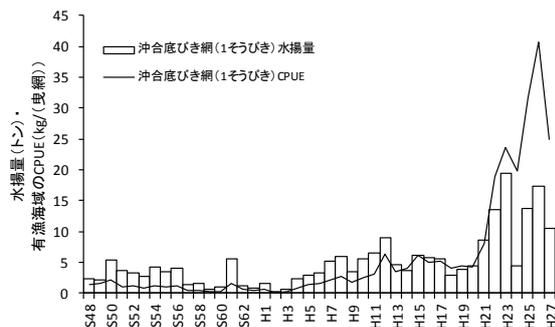


図6 沖合底びき網(1そうびき)によるキダイの水揚量と漁獲効率(有漁海域での曳網当たりの水揚量、昭和48～平成27年)。

漁業実態

キダイの漁獲は主に釣と沖合底びき網です。水揚量は釣が産卵期の5・6月及び9・10月、沖合底びき網(1そうびき)が10～12月に多くなります(図5)。

漁獲動向について、日本海東シナ海系群は平成28年の水準が中位、動向が横ばいと評価されていますが、高知県周辺海域は評価対象になっていません。そこで、資源動向を長期間データが蓄積されている漁獲データから推察しました(図6)。沖合底びき網(1そうびき)によるキダイの漁獲効率は昭和4年(1994年)まで低調に推移していましたが、平成5年(1995年)以降、増加傾向にあります。また、調査船調査の結果では、キダイの採集密度を1980年代(昭和58年～平成元年、堀川2009)と平成26年～平成28年の間で比較すると(図3)、最近の方が高くなっていました。これらから、キダイの資源水準は高位、動向は増加と考えられます。

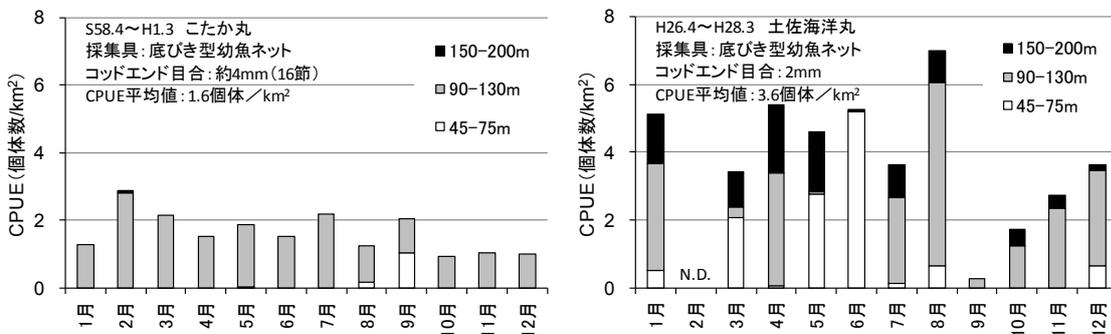


図7 調査船調査によるキダイの1km<sup>2</sup>当たりの月別採集個体数(左図は堀川(2009)をもとに作成)。